



さとやま公園で開催されたイベントの様子



さとやま公園内さとやま体験広場



十二神社周辺の鎮守の杜



### 万福寺さとやま公園

この公園は、この地域の原風景をモチーフに、「新しい里山」として整備しました。里山とは、人と自然が共存する杜のことであり、自然から人が恩恵を受け、人が自然を手入れすることで、人も自然も持続していくことができるという考え方です。これからもこの街がそのような街であり続けることを願って、この公園の名称を「さとやま公園」としました。



さとやま公園の様子



### 万福寺もりの丘公園

この公園は、新しい里山の遊び場として整備しました。元々の地形を活かした高台に設置されていることから、この公園の名称を「もりの丘公園」としました。緑豊かなこの街「新百合山手」で育つ子供達が、この公園でのびのびと遊ぶことで、この街を愛する心、自然を大切にすることを育んでいただきたいと思います。

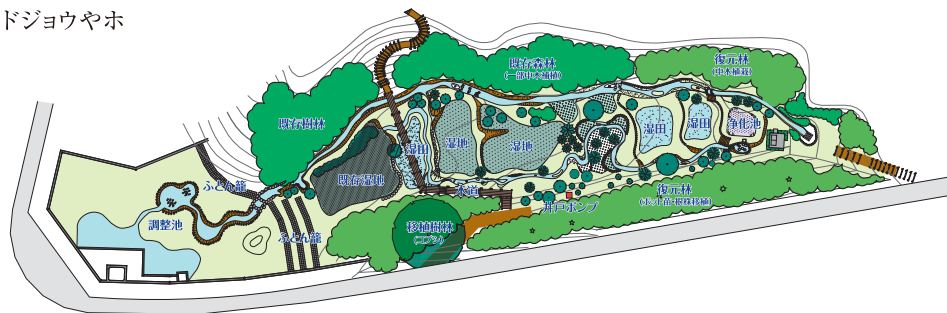


### ビオトープの創出(5号緑地)

従前より、5号緑地周辺には、貴重種として位置付けられているホトケドジョウやホタルが生息していました。そこで、この場所を万福寺地区(新百合山手)の自然を象徴する場、「ビオトープ」として再生しました。絶滅が危惧されていたホトケドジョウは県の水産試験場で養殖し、数を増やした上でこのビオトープに放流しました。また、ホタルが生息しやすい環境を数年かけて形成し、現在、以前のようにホトケドジョウやホタルが息づいています。



ビオトープ(平成17年撮影)



#### ビオトープとは 多様な生物との共生の空間

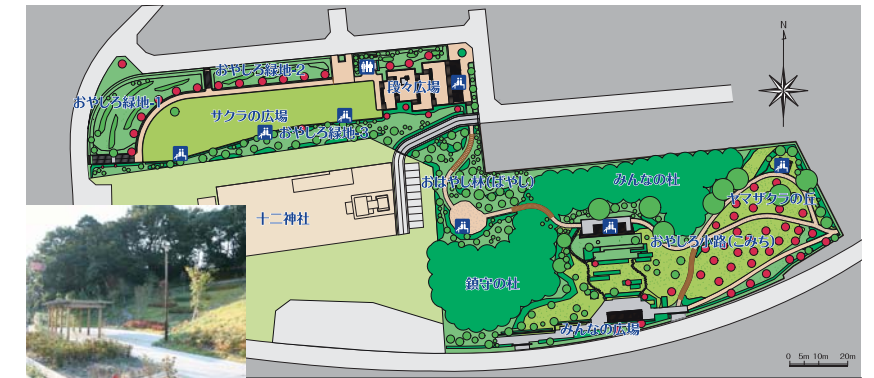
元はラテン語とギリシア語からの造語で「bio(命)+topos(場所)」が、ドイツで「bio(生き物)+top(住むところ)」となり「biotope」という造語になりました。広い意味では多様な生物の共生環境を指し、森林や海洋などもビオトープと捉えることもできますが、一般的には「人間が生活・活動するところ」という但し書きがつけます。ビオトープの概念は多様化していますが、現在の日本においては、生態系を考慮して人工的に作られた自然環境、元来そこにあった環境を復元することを意味することが多くなっています。人間を含む全ての生物にとって自然環境は生活の場です。そのような自然環境・多様な生物との共生空間の確保は、人間生活を維持していく上でも不可欠な空間なのです。



ビオトープに生息するホタル(平成17年撮影)

### 万福寺おやしろ公園

この公園は、地域の氏神様である十二神社を取り囲むようにして整備しました。十二神社の鎮守の森の緑と連動する緑もあることから、この公園の名称を「おやしろ公園」としました。新しい里山の庭園として、十二神社と共に地域の方に親んでいただきたいと思います。



### 万福寺ふるさと緑地

この杜は、事業の緑に対する考え方を示すシンボルとして、地区の最も目立つ場所に「郷土の里山(地区の南の顔)」として、緑地を保全・整備した杜です。元々この地にあった杜のイメージが最も残る杜となっていることから、この緑地の名称を「ふるさと緑地」としました。新百合山手の顔となる里山で、あらためて自然・緑のすばらしさを感じていただきたいと思います。

